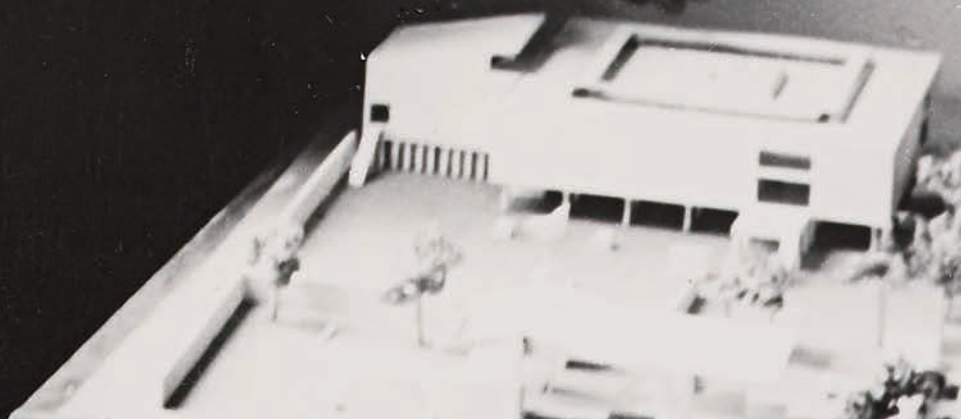


ル・コルビュジエの広場空間

Zephyros⁸⁴

国立西洋美術館ニュース

ゼフュロス



お待たせいたしました。2020年10月より1年半ほど休館しておりましたが、この春、リニューアルオープンいたします。

休館の間、企画展示館の空調と防水の工事を進めてまいりました。前庭の真下、地下にある企画展示館は、展覧会の会場として1998年にオープンしましたが、それから20年以上の歳月がたち、会場内の温湿度を管理する設備の改修と、展示室の屋根の部分にあたる前庭の防水工事が必要となりました。どちらも、海外の美術館などからお借りした作品を守るための大切な工事になります。工事にあたっては、前庭を全面的に処置することになりましたので、今回、前庭を開館当時の姿に近い状態に戻すことにもなりました。

世界遺産でもある国立西洋美術館の本館を設計したフランスの建築家ル・コルビュジェは、「近代建築の5つの要点」や「ドミノ・システム」など、建築の造形をめぐる新しいあり方や概念をいくつも提唱していますが、その一つに「建築的プロムナード」というのがあります。「プロムナード」はフランス語で「散策路」を意味します。ル・コルビュジェは、建築を人々が立ち止まっている場としてではなく、歩き、動き回る空間として構想していました。人々が空間のなかを進むことで、目の前に多様な形態が変化しながら展開するダイナミックな存在として建築を考えていました。国立西洋美術館の前庭もまた、来館者のみなさまが本館の入り口へと歩みを進めるなかで、いくつもの場面が展開する空間となっています。今回のリニューアル工事により、再びそれをみなさまに実感していただけるようになりました。

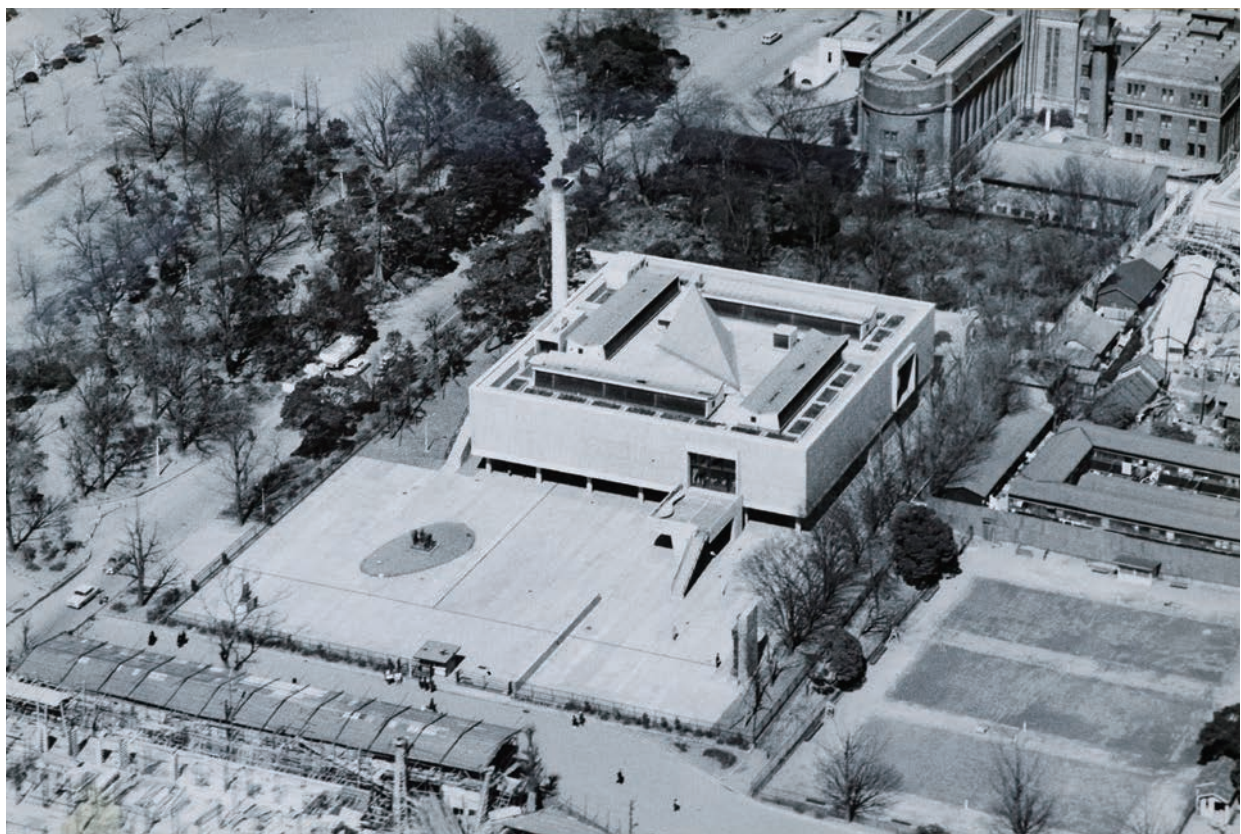
国立西洋美術館は、西洋美術を専門に扱う美術館として東西の文化を架橋し、60年以上にわたりみなさまに親しまれてきました。文化というのは、ほかの地域の多様な文化と交流しながら、つねに変化していきますし、そのダイナミズムも文化が持つ大きな力となります。これから西洋美術を多様な視点からみなさまに紹介することで、西洋の文化に広く親しんでいただき、また深く理解していただけるよう努めてまいります。ル・コルビュジェの建築空間とともに、文化のダイナミズムをぜひみなさまにご体験いただければと願っております。

リニューアルオープンの記念展として、6月より「自然と人のダイアローグ フリードリヒ・モネ、ゴッホからリヒターまで」を開催いたします。新装となりました世界遺産の美術館で、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

[国立西洋美術館長 田中正之]



撮影：稲口俊太



創建当時の国立西洋美術館



写真1 本館完成時の西門

1956年にル・コルビュジェから届いた設計図には美術館、パビリオン、劇場で囲まれた広いオープンスペースが描かれていました。広場は美術館と同じ大きさの正方形を二つ並べた大きさと、正方形の境界線を表すように低く長い壁があり、広場へは上野恩賜公園竹の台広場（噴水広場）がある西側からアプローチするようになっていました。広場の一部と美術館以外の建物は敷地範囲を超えて計画されていたため、彼の弟子である3人の日本人建築家がル・コルビュジェと何度も打合せを重ね、敷地に合わせた詳細設計を行いました。

1959年の本館完成時〔写真1〕、西側の門から一直線に伸びる床の線の先には《地獄の門》がありました。右手に《考える人》、左手の《カレーの市民》を鑑賞しながら進むと、その先は低く長い壁に遮られています。そこで床の線は左に分岐して本館へ誘うように引かれています。敷地を囲う柵は透過性があり植栽も低いもので、園路との一体感があります。

2016年に本館を含む敷地全体が登録された世界遺産決議文には、前庭の顕著な普遍的価値が減じられていると記されました。これは公園園路に面した南西側が植栽帯で囲われ閉鎖的になっていたためです。同時に、地下の企画展示室の屋上にあたる前庭は、防水の更新時期を迎えていました。防水を更新するためには前庭にある彫刻や植栽を一旦全て撤去する必要があるため、工事ののち工事前の姿に戻すのではなくル・コルビュジェの設計意図が正しく伝わる方法を専門家にご議論いただき、可能な限り本館完成時の姿に戻すこととしました。

今回の工事では西側の門からのアプローチや開放的な柵に加え、彼が考案した尺度である「モデュロール」で割りつけられた床の目地も、細部に渡って復原しています。是非、ル・コルビュジェが描いた広場空間を体験してみてください。

〔国立西洋美術館専門員 福田京〕



オンライン・レクチャー

『ル・コルビュジェと国立西洋美術館』

当館の建築を紹介するオンライン・レクチャーを当館公式YouTubeにて配信しております。撮影時期の異なる当館の写真、図面などの資料を織り交ぜながら、ル・コルビュジェの構想、増改築による変遷、世界遺産登録、前庭の復原工事、日本の近代建築への影響など、様々な観点から語られています。ぜひご視聴ください。

『ル・コルビュジェと国立西洋美術館』

第1部 レクチャー「当初から今日まで」

第2部 レクチャー「前庭の復原とこれから」

第3部 対談「ル・コルビュジェと3人の日本人建築家——日本の近代建築への影響——」

出演：西和彦（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長）

松隈洋（京都工芸繊維大学 教授）

* 第1部、2部は西氏によるレクチャー、

3部は西氏、松隈氏による対談





1

今回の展覧会は、ドイツ・エッセンの Folkwang Museum との共同プロジェクトから生まれました。松方幸次郎(1866-1950)とカール・エルンスト・オストハウス(1874-1921)、それぞれの美術館の基礎となっている2つの個人コレクションの近代美術を紹介する「ルノワール、モネ、ゴッホ 浮世のイメージ」展(2022年2月6日—5月15日、Folkwang Museum)に続くものです。本展では、開館から現在にいたるまでの両館のコレクションから、印象派とポスト印象派を軸にドイツ・ロマン主義から20世紀絵画まで100点を超える絵画や素描、版画、写真を通じ、近代における自然に対する感性と芸術表現の展開を展観します。

産業や社会、科学など多くの分野で急速な近代化が進んだ19世紀から20世紀にかけて、芸術家たちも新たな知識とまなざしをもって自然と向き合い、この豊かな靈感源から多彩な作品を生み出しました。展覧会は4つのセクションから構成しています。まず「I. 空を流れる時間」で、自然を変化の相としてとらえてフレームのなかに現実の時間を流れ込ませようとする作品の数々を見た後、移ろい続ける自然の外観ではなく、その向こう側にある不可視のものを追い求めた作品や(II. 「彼方」への旅)、自然に匹敵する秩序と調和をもつ絵画空間の構築を目指した試み(III. 光の建築)を見ていきます。最後の「IV. 天と地のあいだ、循環する時間」では、自然のなかの循環的な時間に人の生を重ね合わせた作品を通じて、生と死をめぐる人間の根源的な感情を浮かび上がらせます。

流れ去る時間、永遠の時空、そして循環する時間と、「時間」が今回の一つの切り口ともいえます。また、4つのセクションは、街の空を見上げた旅人が、山や海の彼方、森の奥深く、水の底、意識の下を旅し、宇宙を夢想した後に、古来、天と地のあい

だて人の営みとともにあった耕作地や庭へ帰ってくる道のりでもあります。ただし、それは自然を旅するための無数のルートのひとつにすぎません。一人の画家も一つの作品もさまざまな傾向と文脈をあわせ持ち、さまざまな解釈に開かれています。I章では印象派を主とし、II章ではドイツ・ロマン主義や象徴主義の作品を主としていますが、それぞれリヒターのフォトペインティングやシュルレアリスムの作品等を挿入することで20世紀からの相対的な視座も用意しました。

足元の草花から広大な宇宙まで、そして人間自身を内包する「自然」の無限の広がりから、2つの美術館のコレクションという枠で切り出した多様な風景の響きあいをお楽しみください。自然との関係が問い直されている今日、見る側それぞれの心のなかで作品との対話を通じて自然をめぐる新たな風景を生み出していいただければ幸いです。

〔国立西洋美術館主任研究員 陳岡めぐみ〕



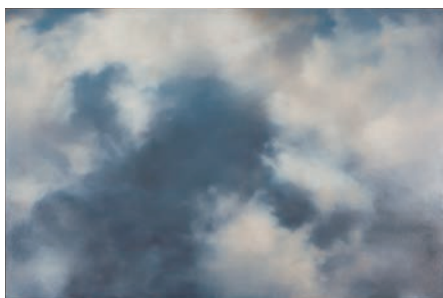
2



3



4



5



6

- 1 フィンセント・ファン・ゴッホ
《刈り入れ(刈り入れをする人のいるサン＝ポール病院裏の麦畑)》
1889年 油彩・カンヴァス
フォルクヴァング美術館 © Museum Folkwang, Essen
- 2 カスパー・ダーヴィット・フリードリヒ《夕日の前に立つ女性》
1818年頃 油彩・カンヴァス
フォルクヴァング美術館 © Museum Folkwang, Essen
- 3 アクセリ・ガッレン＝カッレラ《ケイテレ湖》
1906年 油彩・カンヴァス 国立西洋美術館
- 4 クロード・モネ《睡蓮》
1916年 油彩・カンヴァス 国立西洋美術館(松方コレクション)
- 5 ゲルハルト・リヒター《雲》1970年 油彩・カンヴァス
フォルクヴァング美術館 © Gerhard Richter 2022 (13012022)
© Museum Folkwang, Essen
- 6 ポール・セザンヌ《ベルヴュの館と鳩小屋》
1890-1892年頃 油彩・カンヴァス
フォルクヴァング美術館 © Museum Folkwang, Essen

調和にむかって： ル・コルビュジエ芸術の 第二次マシン・エイジ ——大成建設コレクションより

2022年
4月9日[土]—9月19日[月・祝]

ル・コルビュジエ《牡牛XVIII》
1959年 グラッシュ・カンヴァス
大成建設株式会社(国立西洋美術館寄託)



本展は、国立西洋美術館の本館を設計したル・コルビュジエ(1887-1965)が晩年に制作した絵画と素描をご紹介します。彼は1930年代半ばまでに初期の厳格なピュリスム絵画から脱し、骨や貝殻、そして人体など自然界の形象をモチーフとした作風に変化します。開いた手や複数の顔を持つ牡牛などの抽象的なシンボルを用いながら、彼は人間と機械、感情と合理性、そして芸術と科学の調和を目指したのです。それは、同時代の彼の建築作品と同様、第二次マシン・エイジ(機械時代)の美学に貫かれたものでした。とりわけ開いた手は、与える／受け取るという相互関係を象徴するもので、この時代の彼の絵画制作のエンブレムとなりました。世界有数のル・コルビュジエのコレクションを所蔵する大成建設株式会社からの寄託作品を中心とした約20点(展示替え含め約30点)からなる本展は、この芸術家円熟期の絵画制作の展開を辿ることができる、貴重な機会となるでしょう。本展は当館リサーチフェローのロバート・ヴォイチツツケが企画しました。

[国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介]

新収蔵版画コレクション展

2022年4月9日[土]—5月22日[日]



アルブレヒト・デューラー
『黙示録』より《書物をむさばり喰う聖ヨハネ》
1498年頃 木版・活版印刷 国立西洋美術館

1959年の開館当時、わずか26点に過ぎなかった当館版画コレクションは、地道な購入や篤志家の皆様のご寄贈を経て、2022年4月現在、寄託作品を含めて約4,500点を数えるまでに成長しました。近年は、西洋版画史のメインストリームに位置する作品群の拡充をはかるとともに、その周辺領域にも蒐集対象を広げています。

本展は、当館における最近の版画蒐集の成果をご披露すべく、2015年度以降に新規収蔵された作品より構成しました。デューラー、ブリュゲル、ゴヤ、ムンク、カサットなど多彩なラインナップの中には、松方家、早川家からご寄贈いただいたレンブラントや藤田嗣治の作品も含まれています。展示室中、作品は地域別、時代順を基本に配列されます。新しく当館のコレクションとなった作品一点一点の魅力を堪能いただきつつ、多様で豊かな版画表現の発展にもご注目いただければ幸いです。

[国立西洋美術館主任研究員 中田明日佳]

展示カレンダー〔企画展示／常設展示〕2022年4月－9月

4月 [Apr.]	5月 [May]	6月 [Jun.]	7月 [Jul.]	8月 [Aug.]	9月 [Sep.]
常設展 2022年4月9日[土]より通年で開催					
〔常設展の小企画展示〕調和にむかって：ル・コルビュジェ芸術の第二次マシン・エイジ——大成建設コレクションより 4月9日[土]－9月19日[月・祝]					
〔常設展の小企画展示〕新収蔵版画コレクション展 4月9日[土]－5月22日[日]					
〔企画展〕国立西洋美術館リニューアルオープン記念 自然と人のダイアログ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで 6月4日[土]－9月11日[日]					
〔常設展の小企画展示〕西洋版画を視る：エッチング 線を極める 線を越える（仮称） 6月4日[土]－9月11日[日]					

〔開館時間〕9:30－17:30（金・土曜日 9:30－20:00）＊入室は閉室の30分前まで
〔休館日〕月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間
年末年始（12/28～1/1）、臨時休館日
〔臨時開館・臨時休館のお知らせ〕
臨時開館：2022年5月2日[月]、8月15日[月]
臨時休館：2022年5月30日[月]～6月3日[金]、9月20日[火]～9月26日[月]
（展示替え及び展覧会開催準備のため）
〔常設展無料観覧日〕5月18日（国際博物館の日）、11月3日（文化の日）

〔常設展〕

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。
中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

- ・国立西洋美術館は施設整備のため2022年4月8日[金]まで全館を休館し、2022年4月9日[土]にリニューアルオープンいたします。
- ・展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式ホームページをご確認ください。

レストラン・ショップ情報

〔CAFÉ すいれん〕

営業時間：10:00－17:30（食事11:00－16:45 | 喫茶10:00－17:15）／金・土曜日10:00－20:00（食事11:00－19:10 | 喫茶10:00－19:30）

〔ミュージアムショップ〕

当館の収蔵品をもとにしたオリジナルグッズや当館の収蔵品カタログ、過去に開催された展覧会のカタログ等を販売しています。
全国からご利用いただけるオンラインショップも昨年オープンしました。
当館前庭のリニューアルに際し、ミュージアムショップでご購入いただける、ル・コルビュジェをテーマとした書籍・カタログをご紹介します。



1



2



3

- 1 ル・コルビュジェの芸術空間
——国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡
（1,200円〔税込〕）
- 2 ル・コルビュジェ 絵画から建築へ
——ピュリスムの時代：国立西洋美術館開館60周年記念
（3,871円〔税込〕）
- 3 The National Museum of Western Art 1959
——Looking back on the establishment of the museum through photos
（国立西洋美術館1959——写真で振り返る創建時の本館 英語版）
（510円〔税込〕）

 **国立西洋美術館**
The National Museum of Western Art
〔東京・上野公園〕

国立西洋美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
公式ホームページ <https://www.nmwa.go.jp/>
お問合せ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

〔国立西洋美術館 SNS 公式アカウント〕
Twitter @NMWATokyo
Facebook @NationalMuseumofWesternArt

Zephyros 84 ゼフュロス第84号 | 編集・発行：国立西洋美術館／2022年3月31日（年4回発行） | 協力：公益財団法人西洋美術振興財団 | デザイン：木村稔将
「ZEPHYROS」（ゼフュロス）はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。